

アトピー性皮膚炎 Q&A

はじめに

アトピー性皮膚炎は、「アレルギーを起こしやすい体質」と「敏感肌」という二つの体質を持った人に、「環境からの刺激」が加わって慢性に湿疹をくり返す病気です。(図1)。生後2～6ヶ月に乳児湿疹として発症することが多く、一般的に小学生くらいまで頑固な症状が続きます。多くの患者さんでは思春期が近づくとつれて自然軽快していきませんが、最近では症状が治まらず、青年期や成人の患者さんも増加傾向にあります。

今回は、アトピー性皮膚炎について、特に検査・治療方針・生活指導などについて、普段に外来患者さんからよくされる質問に答えるかたちで説明していききたいと思います。

1. 血液検査で原因はわかりますか？

アトピー性皮膚炎の原因の一つである「アレルギーを起こしやすい体質」は血液の検査である程度わかります。特に小さいお子さんの場合はアレルギーの要素が強いことがあるため、検査をすることに意味があるかもしれません。たとえば、ミルクや卵といった食物にアレルギーを起こしていた場合、それらを除去した食事にすることで症状が改善することがあります。

思春期以降になってくると、アレルギー反応よりも皮膚が乾燥して「敏感肌」になり、そこに汗・掻破行為といった刺激が加わって湿疹反応が起きます。湿疹が続き、肌の防御力が弱まると二次的にダニやホコリ、ペットのふけなどに対するアレルギー検査が陽性になることがあります。その中の一部の患者さんではそれらを除去することで湿疹がましになることがありますが、アレルギー検査が陽性の患者さんでも、しっかりとスキンケアをして肌の防御力を高めるだけで湿疹がよくなることも多く、本当のところどれほど意味があるかはわかっておりません。

このように、アトピー性皮膚炎は、アレルギー体質、敏感肌、環境という3つの要素で湿疹を繰り返す病気であり、血液検査でアレルギー体質の一部はわかることがあります。しかし、血液検査の結果だけから、すぐに食物やダニなどのアレルギーが原因だと飛躍した思いこみはしないでください。

2. アレルギー検査で食物アレルギーが陽性だった場合、食事制限は必要でしょうか？

小さいお子さんのアトピー性皮膚炎では、食事制限をすることで症状がよくなる場合があります。ただ、多くの場合、ミルクや卵といった成長に欠かせない食物にアレルギーを起こしています。栄養を正しくきちんととることも重要ですので、すべての患者さんに食事制限をすすめてはおりません。当院では小児科医師と相談しながら皮膚の症状に併せて食事制限は必要最小限にとどめられるよう栄養指導を行っております。アレルギーの程度が軽度であり、抗アレルギー剤などを使うことでコントロールが出来るようであれば、体

調、湿疹の具合をみながら摂取していただくことが多いです。

3. アトピーはこのまま治らないのでしょうか？

1994年の厚生省が行った調査では、乳児期に発症した人の7割が3歳までに良くなったと答えています。アトピー性皮膚炎は、皮膚の角層の防御能力が低下しているために起こりやすい皮膚炎です。小児の皮膚は皮脂の分泌がほとんどありません。そのため角層を保護する皮脂膜がなく異物がは入りやすい状態で、成人に比べて防御能力が低下しています。しかし、成長とともに皮膚も成熟し、皮脂を分泌するようになり丈夫になっていくため、アトピー体質の人でも年齢とともに症状が軽くなっていきます。アトピー性皮膚炎の人のほとんどが、思春期までに症状が軽くなるか、病院を受診することがなくなるのが普通です。

4. ステロイドを塗ると皮膚が黒くなるというのは本当ですか？また、ステロイド外用薬の副作用を教えてください。

アトピー性皮膚炎の患者さんの湿疹が改善した後に皮膚が黒くなる場合があります。これは、ステロイド外用薬の副作用ではなく、炎症が長く続いたために起こる「炎症後色素沈着」という現象です。日焼けややけどのあとが茶色く残ると同じ現象です。では、ステロイド外用薬ではどのような副作用が起こる可能性があるのでしょうか？主なものは、①皮膚が萎縮して薄くなり、赤っぽくなる。②細菌やカビなどによる感染症が起きやすくなる。の2つがあります。①についてですが、顔や首などのもともと皮膚が薄いところでは特に起きやすいため、注意が必要です。弱いステロイドを用いたり、ステロイド以外の免疫修飾剤(プロトピック軟膏)を用いたりします。②は具体的には、とびひ、水いぼ、ヘルペス、ニキビなどが出来やすくなります。いつもと違う症状が出た場合には専門医の診察を受けてください。

ステロイドを長期内服すると、顔が丸くなる、骨がもろくなる、といった副作用が起きてきますが、外用剤ではよほど大量・長期に使用しない限り全身的な副作用の心配はありません。

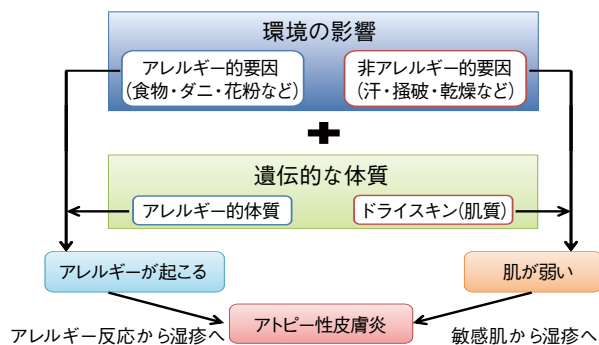


図1 アトピー性皮膚炎の病態(文献1より引用。一部改変)